

文化財だより 第160号

磐田市教育委員会教育部文化財課 平成30年7月1日発行

- 文化財課夏の企画展 『地面の下はビックリ箱!? ー磐田の発掘30年ー』 P1
- 民具が語る歴史 第1回 水を引く・・・ P2~3
- 磐田市歴史文書館 夏の企画展開催!・・・ P4
- コラム『初めて見た発掘調査現場』高畑裕美・P4

平成30年度 文化財課夏の企画展

地面の下はビックリ箱!?

ー磐田の発掘30年ー

とき:7月28日(土)~8月26日(日) 午前9時~午後6時

(※土・日・祝日は午後5時まで。月曜日休館)

ところ:磐田市立中央図書館 展示室

入場無料



文化財課夏の企画展、今年のテーマは「平成」です。

思わぬところから弥生時代の住居を発見！企画展初登場の谷田南古墳群、県内唯一の発見！大宝院廃寺のせん仏、1064点の土製品発見！国指定重要文化財・明ヶ島出土土製品など、平成30年間の発掘調査の中から、発掘担当者も「ビックリ」した遺跡や出土遺物をご紹介します。

磐田市内で見つかった平成のビックリ発掘成果をぜひご覧ください。

スライドショー『平成の発掘調査をふりかえる』

内容:平成の代表的な発掘調査について、文化財課職員が写真(スライド)で紹介いたします。

日時:平成30年8月5日(日) 午後2時~4時

会場:磐田市立中央図書館 視聴覚ホール 申込み:不要。直接会場にお越しください。

企画展記念講演会『古代のまつり研究最前線』

内容:古代のまつりについて、考古学の第一人者がわかりやすくお話しします。

講師: 笹生 衛(さそう まもる)先生(國學院大學神道文化学部教授)

日時:平成30年8月19日(日) 午後2時~4時 会場:磐田市立中央図書館 視聴覚ホール

定員:130名(申込先着順) 駐車場:JA遠州中央北側 参加費:無料

申込み:電話で文化財課 TEL0538-32-9699(平日のみ8時半~17時)まで

7月23日(月)から受付開始(後日入場券を送付します)



民具が語る歴史

第1回 水を引く

(全2回)

現在、竜洋郷土資料館にて展示中の右の民具（農具）をご存知ですか。このコーナーでは、磐田市内で実際に使われていた民具を紹介すると共に、民具が語る歴史を紐解きます。



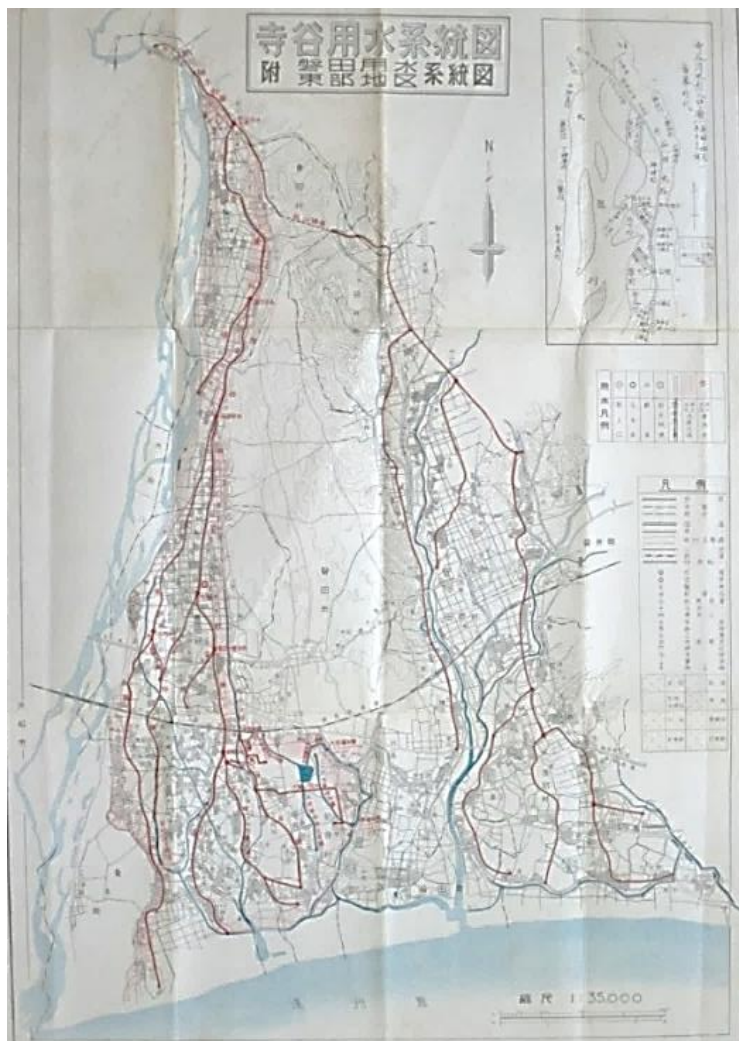
当館所蔵の踏車

寺谷用水から水を引く

右上の写真は、竜洋地区で使われていた「踏車」とよばれる、用水路の水を水面より高い位置にある田畑へあげるための道具です。また、右の写真は、駒場で使われていた「水車」という道具で、踏車と同じく低い位置の水を上へと揚げるために使われていました。



当館所蔵の水車



昭和31年刊「寺谷用水系統図」

用水・水路は赤で、自然流路が青で描かれています。用水・水路が下流（南）に行くに従い枝分かれしていき、水路が広がっていく様子がわかります。

磐田市は天竜川の東岸下流域に当り、市内を縦断するように寺谷用水が引かれています。寺谷用水は、天正16年（1588）に着工、天正18年（1590）に竣工しました。創設当時は、寺谷村地内（現在の磐田市寺谷）に取水口を持ち、浜部村（現在の磐田市浜部）までの3里（約12km）間を、深さ6尺2寸（約1.8m）幅2間2尺（約4m）の水路を切り開いて導水しました。その水路を流れ来る水を田に引くとき、踏車や水車などが盛んに使われました。

海老島で農業をされていた故高橋市郎さん（明治44生まれ）によれば、幼少の頃、水路から水を一段上の水路または水田に引き上げるときに使っているのを見たことがあるとのことでした。

磐田市歴史文書館 夏の企画展開催！

第21回企画展 磐田の近代の幕開け ～庶民の明治150年～

今年は、明治元年（1868）から150年の年にあたります。人々は「明治維新」をどのように受け止め、近代化の波に対してどのように順応していったのでしょうか。歴史資料からわかる庶民の明治150年を探ります。



明治150年
記念ロゴマーク

①磐田市歴史文書館展示室（磐田市岡 729-1、竜洋支所 2階）

平成30年7月9日（月）～8月24日（金）

■休館日 土・日・祝日 ■展示時間 9:00～17:00（入場は16:30まで） 入場無料

②磐田市立中央図書館 展示室（磐田市見付 3599-5）

平成30年9月1日（土）～9月9日（日）

■休館日 月曜日 ■展示時間 9:00～18:00（土・日は17:00まで） 入場無料

【歴史学習会のお知らせ】※聴講無料、申込み不要

日時:9月1日（土）13:30～15:00

会場:磐田市立中央図書館 視聴覚ホール

演題:磐田市所蔵資料から見た「庶民の明治150年」

講師:歴史文書館館長 木村 弘之

【問合せ】磐田市歴史文書館 [TEL:0538-66-9112](tel:0538-66-9112)



開通した頃の中泉駅（明治22年）

職員リレー コラム

初めて見た発掘調査現場

高畑 裕美

梅雨入り前の暑い日に鎌田地区の長江崎遺跡発掘調査現場を見てきました。とにかく暑くて、長居はできないなと思うほど日差しが強い中、作業員のみなさんはコツコツと自分の持ち場を掘っていました。私自身は考古学を勉強してきたわけでもなく、むしろ社会科大嫌い（笑）。もちろん発掘の経験ありません。今まで訪れる機会が無く、初めて見た発掘現場は驚きの連続でした。

たくさん穴があいていて、その穴には番号札がついていて、よそ見して歩いていたら穴に落ちそうでした。穴の中をのぞいてみると大きな石が2、3個あったり…。この現場はもともと家が建っていたところだそうですが、その土地の真ん中あたりに江戸時代の水がめと思われる土器が埋まっていました。作業員さんが壊さないように、ゆっくり優しくその周りの土を除いていました。土器はバラバラになって出てくるものだと勝手に想像していた私。江戸時代のものが長い長い年月を経て、こうして発掘されるというすばらしさに感動しました。大嫌いだった「社会科」に、興味を持つきっかけとなりました。



遺構を測量している様子

【編集後記】踏車を展示している竜洋郷土資料館では、1階に農業・林業・漁業などで使われた道具、2階に掛塚港・掛塚祭に関するものなどを展示しています。ぜひご覧ください。

発行：磐田市教育委員会事務局教育部
文化財課（磐田市埋蔵文化財センター）
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1
電話：0538-32-9699

◆WEB版は市HPから閲覧できます。磐田市 文化財だより [検索](#)



©磐田市